

ふきの芽

第297号
 【発行日】
 令和3年
 11月25日
 【発行者】
 八俣ふきの芽会
 茨城県古河市
 山田 317-3
 Tel 090 2234 6965
 Fax 0280-78-2429

古河市の人口25年後には2万4千人余り減少か？ 「市長と語るうまづくり」数字からみる古河市



改善センターホールで市長の説明に耳を傾ける参加者

11月16日午後7時から三和農村環境改善センターホールで「市長と語るうまづくり」が開かれた。会場には各行政区から二人、合計五十人の参加者が集まり、市長、副市長、教育長、担当各部長ほかの皆さんの説明に聞き入っていた。

今回のテーマは「数字からみる古河市」ということで、近隣の市町との比較を数字で示し、これからの古河市のあり方を含め市長から説明があった。その中で少子高齢化により予測される人口の推移は、古河市の人口が2000年をピークに減少を続け国の推計では2040年には11万6千人になると言われている。市長からは人口の減少により労働力や経済活動の減

少や減速。市の財政力及びサービスの低下が危惧されることから、都市の成長力確保を図り持続可能な古河市を目指したい。そのためには「良いものは磨き足らないものは補う」など地域資源や文化、立地条件を生かして都市の活性化を図る必要がある。

幸い、工業製品出荷額や農業産出額は近年順調に伸びておりこれらにプラスして賑わい空間の創出。芸術文化活動及び交流拠点の整備。未来産業基盤の強化などにより活力に満ちた、誰もが住んでみたいと思う魅力的な古河市を創出してゆきたい。「選ばれる都市」を目指して市民の皆さんの理解と協力をお願いしますと結んだ。

- ### 古河市新型コロナウィルス感染症対策について
- 令和3年度コロナ対策予算18億4342万円
- 1・子育て世代生活支援
 - 2・ワクチン接種体制確保
 - 3・出前・ほか推進事業
 - 4・中小企業等感染防止対策推進事業
- 19項目の支援事業を予定している。
- ### ポストコロナに向けた対応
- 古河市プレミアアール商品券事業など7項目を予定している。
- ### 大型商業施設の誘致を
- 当日の参加者からは、市外への消費者流出を防ぐためにも大型の複合商業施設を誘致して欲しい。見過ごされている環境整備や道路の補修などについての要望。

コロナワクチンの3回目接種は令和4年3月頃から接種開始予定

令和2年度コロナ対策決算169億5千17万円

令和2年4月16日の国の緊急事態宣言を受けて、感染防止対策や市民生活への支援など、45項目の対策を行った。

- 1・感染拡大防止
- 2・市民生活への支援
- 3・児童・生徒達への支援
- 4・市内事業者への支援



11月21日撮影

晩秋の八俣を黄金色に染める

沼影行政区の八坂神社境内の銀杏の木が今年は見事に色づき、観る者を圧倒している。



収益金は12万660円でした 全額八俣小に寄付

11月7日に実施された資源ゴミ回収事業は多くの皆様のご協力により大きな成果が上がりました。ありがとうございました。19地区・区長会 八俣小学校



一貫校の新設要望。などが寄せられた。

『やまたっ子』の夢を乗せて大空の彼方に

11月19日八俣小学校で恒例の「八俣小まつり」が開かれた。今年は新型コロナ感染症対策のため高学年限定の実施となった。午後1時から行われた「ふうせん飛ばし体験」は全校児童の参加で行った。毎回のことながらふうせんが飛ぶ瞬間は感動を覚える。北の方角に飛んだふうせんは今年はどこまで飛んで行ったのだろう。 お便りお待ちしております！



落ち葉拾いに精を出す児童達。集めた落ち葉で焼き芋にもチャレンジ



活弁やまた

いきいき

11月9日、『四季短歌会』の定例会を訪ねた。折しも「文化の日」にちなんだ催事が各地で行われている最中、長年短歌の世界に遊ぶ皆さんを是非読者の皆さんに紹介したいものと企画した。

『四季短歌会』は今から二十数年前に、知る人ぞ知る歌人の高橋春子さんの呼びかけで始まった会である。

毎月一回、改善センターに集まり日々の想いを詠んだ短歌を持ち寄り和気あいあいと近況報告や世間話を交えながら、心の修練として短歌を詠み続けている。

コロナ禍で、ここ数年はみんなで揃って四季折々の自然や人の交わる様などを短歌に綴る「吟行」は行えないでいる。

現在、五人のメンバー(代表者、中島公也さん)が在籍し活動しているが、皆さん口々に「普段の生活の中で感じる四季折々の自然や営みの一つひとつを短歌に詠む事で、人生を何倍も楽しめる。常に頭を使う事で老化防止に大いに役立っている」

短歌を詠み続け二十幾年 反と会える喜びが心を支える

と、にこやかに答えてくれた。三十一文字(みそひともじ)で表現する日本語の素晴らしさや先人の想いに触れられる喜びは何事にも代えがたいと・・・

四季短歌会詠草

令和三年十一月九日

様々な思いを胸に真子さまは背筋をピンと今日旅立ちぬ

私の視線に写る秋茜

弧を描きつつ空の彼方へ

剪定の足下にズン響き来て寝そべる犬も地震にうろつく

肌寒し寄せ鍋つつく老夫婦 息子の夕食アヒージョって何?

紅葉の黄が多いねとバスの中おしゃべりしつつ八ッ場へ走る

写真上は改善センターで定例会を行う皆さん。

普段の生活の中や散歩中에서도常に短歌に詠んだら、あ、かこうか試行錯誤が頭を駆け巡るといふ会員の皆さん。



息をのむような景色に思わず立ち尽くす 樹齢百年を超えるシダレモミジ

南行政区の増田良男さん宅の庭に鎮座するシダレモミジが紅葉真っ盛りとなり日本の秋を満喫させてくれている。

今年の春に紅梅の開花で取材に訪れた際、樹形の素晴らしさに驚き紅葉時の秋には是非拝見させて頂きたいと願っていたモミジである。写真上11月21日撮影。葉に隠れ幹が見られないのがとても残念だが、根元の大きさは絶品である。

このシダレモミジは昭和13年生まれの良男さんが生まれた時には既にあったといひ、推定百年以上は超えているという。

消毒や肥料やりなど普段の手入れも欠かさないそうでモミジ特有のテップウムシには特に注意を払っているという。しかしどうしても譲って欲しいという方がおり、この名木も「今年が見納め」となりそうと増田さん。



夢に向かっどまっしつぱ 15年ぶりの大会新記録 三和中 香取奈摘さん

10月27日、第61回茨城県中学校新人体育大会陸上競技の部が笠松運動公園陸上競技場で開かれた。百斤障害に出場した三和中一年、香取奈摘さんは予選で大会新の14秒25をたたき出し、更に決勝では2位に一秒以上も離す14秒13と更に記録を更新して優勝した。

女子百斤障害の記録更新は15年ぶりとなる快挙であったが本人は13秒台を目指していたので残念とのコメントを残した。中学校に入り指導者の青木先生の勧めでハードル競争に挑戦を始めた香取さん。7月の県総体で優勝、8月の関東大会では2位入賞という急成長を遂げていた。小学生の頃から指導を受けている青木先生は、「来年の全国大会では13秒台に乗せ入賞を狙える」と期待を膨らませていた。素晴らしい指導者と巡り会い、大きな目標に向かい前進する奈摘さんに乞うご期待。写真は尊敬する指導者の青木先生と奈摘さん。



緑の大切さを学ぶ授業

私たちの仕事である木のお医者さん(樹木医)に始まり、日本や世界の樹木をクイズ形式で行い、興味を持ってもらった。そして、木は何を食べて生きていて、私たちにどのような恩恵を与えているのかを学んでもらった。生徒さんは積極的に手をあげて楽しそうに授業を受けていた。

「ブロッリーの木」 樹勢回復

校庭にあるスタジイの木、通称「ブロッリーの木」を元気にするためにコンプレッサーという機械で空気を送り、根っこの周りの土を取り、根っこに肥料をあげる治療をおこなった。生徒さんには肥料をあげるお手伝いをしてもらった。



緑育授業 八俣小学校・地球環境を学ぶ

樹勢回復の体験授業

木の大切さを知ってもらったあとは実際にブロッリーの木の下で根っこを触って見てもらった。また、元気になるように肥料入りの土を入れてもらい樹木医の体験をした。また、木を観察したりドングリを拾ったりと興味津々な様子。写真左

令和3年11月19日

感想まとめ

授業の最後にはブロッリーの木が栄養を吸い取れるように柔らかい土を保てるように、「木の周りに近づかない、踏みつけない」という大切な約束をした。樹木について学び、根っこを見たり触ったり、とても貴重な体験になったと思う。樹木の存在を身近に感じ、大切にすることをきっかけになれば嬉しい。

樹木医補 フルヤ緑販 石川晴久

八俣小学校が 外装リニューアル

八俣小学校校舎の外壁塗装工事が行われている。令和4年3月15日までの期間で施工される。来年の新生徒はピッカピカの校舎で新学期を迎えることになる。

写真左、足場が設置された校舎



カラーの紙面が見られるQRコード

